



## 筑波大学新聞 第359号

雑誌名	筑波大学新聞
巻	359
発行年	2020-11-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00161661">http://hdl.handle.net/2241/00161661</a>

# 次期学長予定者に永田学長



次期学長予定者に決まった永田恭介学長(10月21日、大学会館特別会議室で) = 西村大祐撮影

## 学長選考

2020

学長選考は、永田学長が来月3月で任期満了となることに伴うもの。選考会議は永田学長の再任について「教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができ、能力と情熱、実行力を有し、筑波大学の卓越性を高めることができる者」と認め「ため」としている。

学内の役職教員らで構成する教育研究評議会は9月17日、永田学長と松本宏・生命環境系長の2人を候補者として選考会議に推薦していた。経営協議会の学外委員も学長候補を推薦できるが、今回はなかった。

教育研究評議会は2候補の推薦に先立ち、常勤教職員から学長にふさわしい候補を聞き意見聴取を実施した。大学側の報道への説明では、聴取対象者の約3割が投票し、対象者の10.7%が永田学長に、17.5%が

## 再任で通算11年在任へ

筑波大学学長選考会議(河田第一議長)は10月20日、次期学長予定者に現職の永田恭介学長を選出した。新学長は2021年4月1日に文部科学相から任命される予定で、任期は24年3月までの3年間。永田学長は今回の再任で、開学以来最長となる11年間、学長を務めることになる。

(西村大祐)人文学類3年、後藤佳幸)社会学類3年、2面に関連記事)

松本系長に投票した。

同評議会は、国立大学法人法により選考会議が学長を選考する責任と権限を有していることを確認し、選考会議に2人を学長候補として推薦した。

選考会議は学士会館(東京都千代田区)で、20日午後3時10分から約4時間半にわたって開催された。経営協議会の学外委員10



選考理由を説明した河田第一議長(10月21日、大学会館特別会議室で) = 西村大祐撮影

人と教育研究評議会のメンバーや理事など学内委員14人の計24人で構成され、全員が参加した。両候補に15分ずつ面談し、質疑応答もそれぞれ40分ずつ行った。その後、全委員で審議をした上で、無記名投票が行われ、1回目と2回目で3分の2以上

を得た永田学長の再任が決まった。10月21日には記者会見が開かれ、河田議長、永田学長、稲垣敏之副学長(総務・人事担当)が出席した。オンラインで参加した河田議長は「2候補の1人ずつ面談し、質疑応答もそれぞれ40分ずつ行った。その後、全委員で審議をした上で、無記名投票が行われ、1回目と2回目で3分の2以上

を得た。永田学長は「新型コロナウイルスの感染拡大で、あらゆる分断が見えてきた。分断を乗り越えるすべを見つけたのがアカデミアの役割で、そのために多様な分野を守りたい」と抱負を語った。

今後の3年間は、これまで進めてきた国際性と学際性の向上に加え、「大学ランキン」など固定化した学問や大学、社会の序列を変えたい。それぞれの大学が個性を出して活動することが重要で、これを率先していき」と話した。

意見聴取で松本系長の票数が上回ったことについては「結果の意味と結果をもたらした過程について」

## 2年連続の箱根出場逃す

### 18秒届かず 猿橋は全体6位

来年1月2、3日に開催される第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の出場大学を決める予選会が10月17日、陸上自衛隊立川駐屯地(東京都立川市)で開かれた。筑波大は予選通過ラインの10校にあたり、2年連続62回目の箱根駅伝出場を逃した。10位・専修大とのタイム差は18秒だった。

(大和祐典)障害科学類2年、8面に関連記事)

## 筑波大 指定国立大学法人に

### 40年度までに若手教員3割へ

文部科学省は10月15日、筑波大を指定国立大学法人に指定したと発表した。地球規模の問題を解決する「真の総合大学」となることを構想し、学長の強いリーダーシップの下で、目指すべき方向性や取り組みが全学的に浸透していることが評価された。東京医科歯科大学も同時に指定され、指定国立大学法人は9大学となった。

(北川瑠菜)比較文化学類2年、西村大祐

指定国立大学法人は、世界の有力大学と肩を並べる大学を指定し、研究力や人材育成能力の強化、イノベーションにつなげる制度として2017年度に始

まった。指定されると規制緩和の対象となり、出資対象範囲が拡大したり寄付金など余裕金の運用がしやすくなった。筑波大は構想の実現に向

け、外国人学生を全学生の30%に当たる5000人まで増やす。また、医学群などを除く1600人の学生に、1600人の教員が個別指導にあたり、学際教育

の充実を図る「チュートリアル教育」を実施する方針を掲げた。また、課題となっている若手教員比率の向上を図るため、40年度までに新たに900人規模で採用を進め、全教員の30%まで増やす。研究成果の社会実装を進めるため、企業との研究部門と一体化した「B2A(Business to Academia)研究所」なども設置する計画だ。

文科省は昨年10月、22年度からの第4期中期目標期間に向け、指定国立大学法人を新たに公募した。筑波大、九州大、東京医科歯科



予選会で快走を見せた猿橋(右)

箱根駅伝予選会上位10校は以下の通り。▽順天堂大▽中央大▽城西大▽神奈川大▽国士舘大▽日本体育大▽山梨学院大▽法政大▽拓殖大▽専修大

# 筑波大学新聞

第359号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699  
E-mail  
shinbun@  
un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

## 注目記事

自宅で簡単に睡眠の質測定  
オムニバス映画3作品提出  
硬式野球リーグ戦優勝校に勝利  
「検証春のオンライン」下  
団体での課外活動再開

11 10 9 5 2

## 特集

雙峰祭・やど祭・スポデー中止  
どうなる学生文化 6・7

## ミニ特集

オンライン化進む大学新聞  
コロナ禍で影響も 3

## 筑波お話し

筑波大は18秒差で2年連続の箱根駅伝出場を逃した。だが、桐の葉を胸にした2人のエースが、先頭集団を引っ張る映像に釘付けになった駅伝ファンも多いはず。チームとしても12人中11人が自己ベストを更新した。平坦な周回コースで、雨で気温が下がる好条件だったが、好タイムの理由はそれだけではない▼試合後、上道杉岳・駅伝主務(地球4年)に電話インタビューし、そう

気づいた。「タイムが遅い選手がチーム内でいかに価値を持てるか」をずっと考えてきたと言った▼元々は選手だったが、昨年の5月からフレイグマネージャーに転向。練習のサポート役を務め、「箱根を目指す覚悟はあるのか」とチームの意識改革を迫った。今年は、そんな彼に共鳴した3年生5人が新たにプレイングマネージャーとなった。選手のタイム計測やランニングフォームの撮影など、走り以外でもチームに貢献する。大土手(主将・体専4年)は、彼らの存在がチームを盛り上げてくれたと感謝する▼4月に実家に帰った直後に緊急事態宣言が出され、つくばに戻れなくなった。リモートで大学新聞の取材活動に参加はしたものの、1人だけ取り残されたような気分になった▼でも、どんな状況でも、自分の役割を主体的に考えることができれば、見えないはずがなくなり、チームの総合力は上がると知った。来年の予選会が楽しみだ。















## 「希望」をテーマにオムニバス映画

### 120大学参加 筑波大から3作品

新型コロナウイルスの感染拡大で創作活動が制限される中、全国の大学生から映像作品を集めてオムニバス映画を作る企画「突然失礼致します！」に、「筑波大学THK筑波放送協会」と「筑波大学VICC」映画をつくる会」が参加した。「希望」をテーマに3作品を制作、提供した。

（半田実乃理Ⅱ社会学類1年、遠子内早紀Ⅱ教育学類3年）

群馬大映画部の部長、熊一たい気持ちはみんな一緒

谷宏彰さんが企画した。コ  
だ」と発案した。4月21日  
コロナで他大学の映像制作  
サークルとオンラインで交  
流する中、「創作活動をし  
提案し、その後、企画の輪



山下さんの作品「小さな日々」の一幕＝本人提供

制作期間は5月中旬から7月中旬で、120大学から、アニメーションやミニドラマなど180作品が集まった。テーマを希望に決めたのは「コロナ禍で社会が求めているものの一つで、抽象的なテーマの方が多様な作品が集まりやすい」と考えたからだ。

筑波大学THK筑波放送協会は「小さな日々」とDon't give up!の2作品を制作した。「小さな日々」は、オンライン授業や友達との長電話といった日常の風景を主人公の大学生がスマート

フォンのカメラで日記のように記録していく作品だ。監督の山下ひさ乃さん（資源2年）は、「生活範囲が狭まった中でも、日々を積み重ねることで小さな希望を見つけれられる。見た人に「明日いいことが起きるかも」と思ってもらえたらうれしい」と、作品に込めた思いを語った。



田所さんの作品「漂う過去、浮かぶ今」＝本人提供

ら始まる。真つ暗な画面で話は進行し、視聴者の不安を煽る。ところが、女性を追い詰めていたのは3000字の課題レポートだったことが最後の一言で

## 新しい日常のサポートに

### 芸術系 ウェブサイト開設

筑波大芸術系は、コロナ禍に苦しむ社会に芸術を通して貢献しようと、新たなウェブサイトを開設した。教員や学生約20人が参加し、親子で楽しめる粘土細

## 似顔絵や塗り絵で笑顔届ける

### オクトーバーフェスト

屋外でビールや食事を楽しめるイベント「つくばオクトーバーフェスト」が、10月9～11日につくばセンター広場（つくば市吾妻）で開催された。地域住民との交流を深めようと、筑波大生約30人が来場者の似顔絵描きや塗り絵ワークショップなど六つの企画を提供し、会場を盛り上げた。（三橋美音Ⅱ教育学類1年 田所涼Ⅱ同3年、12面に関連写真）

同イベントはアイリッシュパブ「フィンラガン」もマスク着用や手指消毒などの対策をとって参加した。フィンラガンは、感染防止対策に取り組む事業者を登録する県のは10、11日に実施された。

有料で来場者の似顔絵を描く企画「似顔絵やさん」は、11日に実施された。寺澤さんに似顔絵を描い



当日の似顔絵やさんの様子（10月11日、つくばセンター広場で）＝三橋美音撮影

てもらった筑波大の女子学生は「可愛くて気に入った。データをもらったので、SNSのアイコンにしたい」と喜んでいた。

11日には「塗り絵ワークショップ」が開かれ、白抜きにしたオクトーバーフェストのポスターなどに色鉛筆で自由に色を塗る企画を子どもたちが楽しんだ。ポスターは、ピアジョッキを囲んでさまざまな人々が交流する様子が描かれ

てもらった筑波大の女子学生は「可愛くて気に入った。データをもらったので、SNSのアイコンにしたい」と喜んでいた。

「作ってみよう！」では疫病退散の力を持つとされる。サイト名は「ART a

筆で自由に色を塗る企画を子どもたちが楽しんだ。ポスターは、ピアジョッキを囲んでさまざまな人々が交流する様子が描かれ

ジョッキにはロケットや筑波山があらわれている。ポスターをデザインした伊藤菜さん（同3年）は「自分の絵に他の人が色を塗るのは初めてで新鮮だった」と話していた。

フィンラガンの松島壮志代表（平成7年度体育専門学群卒）は「筑波大生の活動を地域の人々に知ってもらえる良い機会になった。今後も両者が交流できるイベントを企画したい」と語った。

だが、自宅録音でも綺麗な音声で録音できて驚いたと、コロナ禍での新たな発見を語った。筑波大学VICC映画をつくる会からは、田所涼さん（教育3年）が「漂う過去、浮かぶ今」を提供した。

田所さんは、大学生活が忙しく、映画を作れていなかった。「作りたいけど作れない」というモヤモヤを吐き出そうと参加を決めた。コロナ禍で田所さんの暮らしを撮った映像に、高校時代に制作した映像やテ

ロップを重ねた。田所さんは「現在の自分と過去の映像を交錯させ、今の自分を浮き彫りにしたかった。コロナ禍であっても作品はできるという希望を、見た人に伝えたい」と語った。

熊倉さんは「多くのサークルの皆さんが参加しない」と作品は成立しなかった。企画への参加を本当に感謝している」と話した。作品は8月16日から10月31日までYouTubeで公開された。現在はミニシアターで上映する準備を進めており、公開は来年1月以降を予定している。

私にとっては待望の過ぎやすい秋が来た。秋は着込めばなんともなるのがいい。そう思っていたけれど、一度寒さで鋭敏になった肌や耳の感覚は秋特有の寂しさを握って離さない。こればかりは着込んだでもどうしようもなく困るものだ。一旦炬燵を出して騙し騙し生活している。（吉川創揮Ⅱ比較文化学類4年）

## 私の一本



生きとし生けるものは必ず死ぬ。しかし死者を悼み、あの世へとおくるのは人間だけである。用い

『おくりびと』 監督 滝田洋次郎 監督 らではの偏見に傷つき、孤独死の凄惨な現場にシヨックを受けたりしながら、やがて仕事に意義を見出していく。

葬儀会社社長（山崎努）が行う死に化粧の鮮やかな手さばきに、参列者たちの表情が変わっていくのを目のあたりにして、主人公は心の中でつつ

シヨンの力が要した。在りし日の姿を想像しながら化粧を施していくと、死者との交流の回路が開かれ、葬儀は別から再会の場へと変わる。さらにそれは生きるこ

類の発祥のころにまでさかのぼることができるといふ。葬儀とは人間を人間たらしめている根源的な文化の一つであるといえるだろう。

死から切り離された現世社会を、死にまつわる職業という視点からユーモラスに、温かく描いたのが本作である。所属していたオーケストラが解散し職を失ったチェロ奏者（本木雅弘）が、音楽の夢を捨てて新妻と共に故郷に戻る。ひょんなことから始めることになった仕事は納棺師であった人間関係の濃い田舎な

生を脅かすものとしてではなく、むしろ生を豊にするものとしての死。映画の後半はこのテーマに注がれていく。モノと

この映画を始めて観た時には、感動という少し動揺してしまった。その時の自分が死をあまりリアルに捉えていなかったらどうだろう。おそるおそる見返してみたが、滋味に変わっていったのは、黄昏時が視野に入ってきたからなのだろうか。

## 江藤 光紀 准教授（人文社会学系）



一橋大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。愛国学院大講師、筑波大講師を経て2011年より現職。

◆おひつわ 芸術の森は休みます。











## 箱根駅伝 予選会 チーム支えた2人のエース



練習に励む猿橋（右）と西（左）＝陸上競技部提供

予選会では、猿橋と西が最上級生の意地を見せた。猿橋。スタートから先頭集

【一面参照】10月17日に東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の予選会が開催された。今年1月の本戦で最下位に沈んだ悔しさを胸に、選手たちは2年連続での箱根路を目指した。結果は11位と本戦出場には惜しくも届かなかったが、出走した12人のうち、11人が自己ベストを更新。猿橋拓己（社工4年）と西研人（体専4年）の2人が筑波大新記録を叩き出すなど、来年につながる走りを見せた。

（大和祐菜）



コースを駆け抜ける小牧＝日本学生オリエンテーリング連盟提供

## 小牧 激しく追い上げ優勝 日本学生選手権

### オリエンテーリング

日本学生選手権のロングディスタンス部門が10月18日にミツモチ山（栃木県矢板市）で開催され、筑波大は男子の部で小牧弘季（資源4年）が優勝を果たした。女子の部では、宮本和奏（地球4年）が3位となった。日本学生選手権の開催は約11カ月ぶり。新型コロナウイルスの影響で、今年3月に開催予定だった昨年度日本学生選手権のミドルディスタンス部門、リレー部門が開催中止、及び今年

度のスプリント部門が開催延期となっていた。オリエンテーリングは、山野に設置されたポイント地図とコンパスを使って順番通りに通過し、ゴールまでの速さを競う。

## オータムカップ 中央大に快勝

### バスケットボール

【エスフォルタアリーナ八王子（東京都八王子市）で加藤優花Ⅱ国際総合学類3年、写真も。12面に関連

写真】12大学が参加するオータムカップが10月10日から11月7日まで開かれていた。筑波大は10月10日の筑波大対中央大の試合で、序盤は主導権を握られたが、試合の流れを引き戻し、逆転勝利した。



ゴール下でシュートを放つ山口（10月10日、中央大戦で）

半を迎えた。第3クォーター前半は、得点が入らない時間が続いた。だが、菅原暉（同4年）の連続得点を皮切りに、筑波大はゴール下や外から得点を重ねた。攻守の切り替わりが激しくなった第4クォーターは、野本が3Pシュートを決めると、木林

優（同1年）もゴール下で得点を挙げた。筑波大は71-53で初戦を突破した。主将の菅原は「今年度初の公式戦ということもあり、全体的に動きが硬かった。ディフェンスとリバウンド時の連携が課題だ」と話した。

### スポンサー契約締結 社会貢献活動も

筑波大男子バスケットボール部は9月、大樹生命（本社・東京都江東区）とスポンサー契約を締結することで合意した。ユニフォーム前面に同社のロゴを表示し、資金の支援を受ける。国内の大学バスケットボール部では初の試みで、選手が競技に集中できる環境を整備する狙いがある。日本バスケットボール協会の規定が改定され、今年度から大学チームでもスポンサーのロゴ広告をユニフォームに掲載できる。それをを受け、吉田健司監督は「企業との連携が、選手たちの成長に役立つ」と話した。

大樹生命の社員に話を持ちかけ、スポンサー契約を結んだという。筑波大男子バスケットボール部は昨年春の関東大学選手権で準優勝。冬の全日本大学選手権でも優勝し、大学日本一に輝いた。部員は活動するにあたり、選手登録料などを含む部費や遠征費などを負担する。特に、部全体で年間約100万円かかる遠征費は大きな負担となっている。スポンサー契約で得た資金は、これらの補助に使われる予定だ。

今年2月まで、同部は小中学生を対象にバスケットボールを教える「クリニック」を開催していた。今後は、大樹生命の支援をもとに、練習に取り入れやすいメニューを紹介する動画を配信するという。大樹生命の担当者も「本紙の取材に対し、今後、選手が行う地域貢献活動を通じて、コロナ禍の子供たちに夢を与える活動を行ってきたい」と答えた。（寺尾優汰Ⅱ比較文化学類1年、加藤優花）

### 日本学生選手権 シード権逃す

### 水泳競技

大学日本一を決める日本学生選手権（インカレ）が10月1〜4日に東京辰巳国際水泳場（東京都江東区）で行われた。新型コロナウイルスの影響を受け、大会は無観客で開催された。

### 関東大学リーグ戦

### 東京医療保健大に大敗

【つくばカピオ（つくば市竹園）で細井真生Ⅱ人文学類1年、加藤優花Ⅱ国際総合学類3年】8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。



ディフェンスを突破する池田（10月11日、東京医療保健大戦で）＝加藤優花撮影

試合開始直後から、筑波大は主導権を握れない時間が続いた。森岡奈菜未（体専1年）の3Pシュートや佐藤由璃果（同4年）の連続得点を食らいついたが、第3クォーター、鈴木侑（同2年）が連続得点で試合の流れを引き戻そうとす

【つづけばカピオ（つくば市竹園）で細井真生Ⅱ人文学類1年、加藤優花Ⅱ国際総合学類3年】8大学で競う関東大学女子リーグ戦が9月21日から10月24日まで行われ、筑波大は5勝2敗で、3位となった。

初戦から4連勝中の筑波大女子は10月11日、第5戦で東京医療保健大と対戦した。筑波大は、フィジカルが強くシュートを確実に決める相手に64-119で敗れた。

主将の渡邊悠（同4年）は「チームでは速攻を重視しているが、シュートを決める力が足りず、他大学に比べてリバウンドも弱い。一方で、試合を重ねるごとに、出場時間にとらわれず、各々の役割を果たそうとする姿がみられるようになった」と話した。

柏倉秀徳監督（体育系・特任助教）は「試合を通じて、徐々にゲームの勘を取り戻している。リバウンドや得点力が今後の課題だ」と話した。



# 陸上 関東インカレ 高良ら4人優勝



3回目で6.09を記録し優勝を決めた高良の跳躍＝陸上競技部提供

関東学生対抗選手権(関東インカレ)が日程を分けて開催されている。10月9～11日には相模原ギオンスタジアム(神奈川県相模原市)で短距離や跳躍、投てき種目を中心に実施された。筑波大は女子走幅跳の高良彩花(体専2年)が昨年に続いて優勝するなど、26人が17種目で入賞した。9月の日本学生対抗選手権(日本インカレ)に続き、筑波大は好成績を残した。

## 陸上

動が制限され、選手たちのトレーニング不足が懸念されることから、10、11月に開催された。筑波大が所属する1部では10月24、25日に混成競技が、11月10日の女子1部走幅

跳では、高良が2年連続の優勝を果たした。1日の日本選手権で優勝した高良は「U-20日本記録の6.44を更新することが目標」と臨んだが、6.09にとどまった。日本選手権の疲れが残る中で大会となり、「難な跳躍をしてしまった」と振り返った。

そのほか、女子1部では100mの三浦由奈(同1年)が11秒64、やり投の兵藤秋穂(同3年)が49.48で優勝した。

10日の男子1部やり投では、堤洗太郎(同1年)が初優勝した。雨中の投てきとなったが、1回目で63.96を記録。これが優勝記録となり、初出場ながら1位に輝いた。今大会の結果を受け、堤は「きちんと投げ切ることができた自分を評価したい。4連覇を目標に、日本インカレなど大きな大会でも戦える選手を目指す」と話した。

筑波大は1年生が5人入賞するなど、下級生が結果を残した大会となった。主将の桑添友花(同4年)は「(大会の)開催時期が遅れたことで、3年生以下が主役となって活躍してくれただ。この経験を次回以降の対校戦に生かしてほしい」と語った。

## 西浦 サヨナラ安打

### 優勝校・日体大に逆転

## 野球

首都大学野球秋季リーグ戦が9月19日から10月18日に開催され、筑波大は3勝2敗で4位となった。バッテリーングパレス相石スタジアムひらつか(神奈川県平塚市)で行われた10月18日の最終戦は優勝校の日本体育大と対戦。10回表に先制点を奪われるも、その裏に代打西浦謙太(体専1年)のサヨナラ安打で逆転し、2-1で勝利した。先発の佐藤肇輔(同3年)を残した大会となった。主将の桑添友花(同4年)は「(大会の)開催時期が遅れたことで、3年生以下が主役となって活躍してくれただ。この経験を次回以降の対校戦に生かしてほしい」と語った。

## スポーツ顔

## 陸上

高校1年時、競技を始めて7カ月で全国入賞を果たした。競技歴は3年半と短い。昨年1月には、東京五輪女子リレーの二期プロジェクトメンバーにも選出された。注目の新人だ。

短距離の100mと200mを専門とする。レース直前のルーティン点を挙げた鈴木隆介は「最初のシュートが決まり、落ち着いてアレーできた。今日は今までにない最高の出来だった。1回限りにならないよう、日々練習を頑張りたい」と話した。

藤本元監督(体育系・准教授)は「今のチームは相手に対応して戦える。速攻が課題だったが、後半は相手の攻撃を読み切り、早く相手陣地にボールを運ぶ効果的な攻撃ができた」と語った。

千葉県出身。幼い頃から運動が大好きで、走ることに得意だった。幼稚園や小学校の運動会の短距離走はいつも一番だった。

「高校で専門的な指導を受けたい」と思った。しかし、県記録会を最後に自己ベストが更新できなくなった。何度走っても体全体が力んでしまふ。「優勝して当たり前」という雰囲気を感じてきた。期待に応えたい。高校最後の国体では自己ベストこそ更新できなかったが、100mで準優勝を果たした。「正直2位は悔しかったが、原点に返ったように伸び伸びと走れた」と話す。筑波大を卒業した高校社会学類1年、写真は本人提供



東京五輪女子リレー プロジェクトメンバー

## 景山 咲穂 (体専1年)

心の底から楽しんで走れない日々が半年ほど過ぎたとき、顧問の一言で意識が変わった。「負けや失敗を恐れず挑戦すること、そして、自分のために競技をやりなさい」。重圧から解放され、レースを楽しむようになった。高校最後の国体では自己ベストこそ更新できなかったが、100mで準優勝を果たした。「正直2位は悔しかったが、原点に返ったように伸び伸びと走れた」と話す。筑波大を卒業した高校社会学類1年、写真は本人提供

座馬健人(同4年)の打球が併殺打となり、先制はならなかった。両チーム無得点で迎えた10回、試合は無死1-2塁から始まる「タイブレーク」に突入。筑波大は加藤三範(同4年)が登板した。1死満塁から犠牲フライで先制された。その後も2死満塁のピンチを迎えた。しかし、2年ながらプロ注目の矢澤宏太(日体大)を右飛に打ち取った。後がない筑波大は10回裏、先頭がバントを失敗するも、七番片岡心(同3年)はエラーで出塁、1死満塁となった。代打の西浦がノーボールツーストライクからライト線へ2点適時打を放ち、今季リーグ戦優勝を決めていた日体大に逆転サヨナラ勝ちを収めた。西浦は「今季は代打として指名されることが多く、早くから準備をしていた。スタッフやコーチから励まされ、思い切ってアレーできた」と語った。



10回裏に2点適時打を放った西浦＝硬式野球部提供

川村卓監督(体育系・准教授)は「リーグ戦を振り返って『コロナ禍で自粛期間が長かったが、4年生が中心となり、誰一人脱落せず今季を迎えることができた。来季は出塁した後の状況に応じた打撃を強化していきたい』と話した。(天野隼太)比較文化学類1年、牧田宗大(社会学類4年)

## 大量得点で法政大に圧勝

### 秋季リーグ戦



相手を振り切りシュートを放つ三輪(10月3日、法政大戦で)

## ハンド

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で遠子内早紀(教育学類3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で遠子内早紀(教育学類3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で遠子内早紀(教育学類3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で遠子内早紀(教育学類3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で遠子内早紀(教育学類3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後

【坂東市総合体育館(茨城県坂東市)で遠子内早紀(教育学類3年)写真も】10大学で競う関東学生男子秋季リーグ戦が9月13日から10月18日にかけて行われた。31日まで開催予定だったが、複数大学で新型コロナウイルスの感染者が発生し、最終順位決定戦は中止された。筑波大は中止前の成績により、3位となった。10月3日の第3戦は法政大と対戦。相手を終始圧倒し、34-16で勝利した。筑波大は試合開始直後



# 教員負担浮き彫り

## オンラインの可能性も発見

コロナ禍に見舞われた大学で教員や学生は、オンライン授業の活用を前向きに受け止めても、これまでとは異なる授業の在り方に負担や戸惑いも感じていた。本紙や筑波大が実施したアンケートで、こんな実情が明らかになった。大学はこの経験を今後、どう生かそうとしているのか。教員や担当副学長に取材した。

（西村大祐、後藤佳怜、遠子内早紀）

### 睡眠時間削って 授業を準備

本紙が今年9月、教員を対象に実施したアンケートでは、回答者の8割がオンライン授業導入で負担が「増えた」「どちらかと言えば増えた」と答えた。

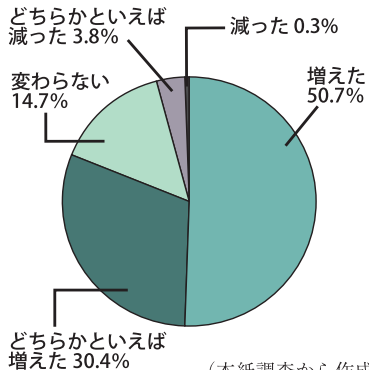
その後の本紙の取材で浮かんだのは、具体的なノウハウがないまま、時間をかけ、試行錯誤で授業の準備に臨んだ教員の姿だ。

森本健弘講師（生環系）は「オンライン授業の経験がなく、あらゆることが大変だった」と振り返る。春学期開始当初は、一つのオンラインデマンド型授業の収録に、授業時間の約2倍の時間がかかった。ノイズや聞こえ方にも気を使う必要があり、睡眠時間が減った時期もあったという。

新保奈穂美助教（同）は「オムニバス方式の授業で世話人を担当したが、オンラインデマンド型や同時双方向型など教員ごとに希望する授業方法が異なったため、調整が大変だった」と話した。

一方、教員の多くはオンライン授業を今後も活用していくことに前向きだ。本紙アンケートでは、対面授業の再開後にオンライン授業を行うことに、7割

オンライン授業は従来の対面授業と比べ、教員の負担は増えましたか、減りましたか。



（本紙調査から作成）

が「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた。

新保助教は「遠方に居住する非常勤講師が講義しやすくなる」と語った。これまでは、フランスに住む教員が来日する機会に、筑波大で授業をしていた。だが、今年の秋学期はオンライン会議システムを使って現地から授業するという。

安野嘉晃教授（医学医療系）は、これまでも技術的には可能だったオンライン授業がコロナ禍で広く普及したと指摘した。従来の対面型の授業では地理的な制約が多かったが、オンライン授業は場所に縛られない。

### 学生の意見踏まえ 改善策実施へ

大学が全学群・大学院生を対象に実施した「オンライン授業に関する学修状況等の実態調査」の最終報告が、10月15日に公表された。学群生の多くが課題の多さや友人との交流の難しさにストレスを感じており、春学期中に授業が改善されなかったと答えた学群生が



### 教員・学生双方 意思疎通難しく

教員の声に対する受け止めや、今後の授業の在り方を清水副学長（教育担当）と、教学マネジメント室長の山中敏正教授（芸術系）に聞いた。（聞き手・西村大祐、後藤佳怜）

約8割の教員が負担の増加を感じていた。清水副学長 大きな問題だ。大学としても色々と支援を試みたが、十分ではなかったということだろう。授業動画の具体的な作り方など、技術面のサポートがもっとできれば良かった。山中室長 春学期は教員

個人の能力に頼ってしまっただけでなく、教員にも余分に負担がかかっていた。

オンライン授業の悪い点について、7割近い教員が「学生とのコミュニケーションが難しくなった」と答え、最多だった。

清水副学長 教員は、学生の表情やリアクションを観察しながら授業を進めている。オンラインでは対面と異なりそれが難しく、苦勞した教員が多かったのではないかと。山中室長 大学が実施した学生への調査では、教員への質問がしにくいと回答する学群生が一定数いた。（本紙実施の）教員へのアンケートと照らし合わせると、双方が意思疎通に難しさを感じていたと分かる。図らずも、オンライン授業が教員と学生間のコミュニケーションの重

## 「併用授業への支援急務」

コミュニケーションを支える体制（ティーチング・アシスタントなど）の充実が必要だ。現在は十分な機器と分かる。図らずも、オンライン授業が教員と学生間のコミュニケーションの重

## 留学生の声

韓国 シン・イナ（教育学類）

「日本は第二の故郷だ」という。留学生にもかかわらず、中学・高校の国語科教職課程を履修し、小学校と特別支援学校の教員免許取得も目指す。

学群3年生ながら、今年度春学期までの累計修得単位は160を超え、努力家だ。ソウル出身。2018年、教育学類に入学した。小学生の時、日本人と韓国人の両親を持つ友人と家族ぐるみの付き合いがあり、簡単な日本語を話せるようになった。中学校は日本語が必修で、本格的に勉強を始めた。

この頃、日本における外国人児童・生徒の教育を受け、教学マネジメント室は秋学期授業に向けての留意点をまとめた。▽学生が質問できる場や、学生同士の意見交換の場を設ける▽課題へのフィードバックを増やす▽授業に関する連絡や資料の配布に使うツールを原則としてmanabaに統一する――など。8月に行われた教員向けの研修会や、8月と9月に清水副学長が出した教育組織への通知を通して教員に伝えた。

調査では、春学期中に授業の内容と方法が改善され、学群生は4450人、有効回答者は6338人、有効回答者は38・6%、学群生の多くが課題の多さや友人との交流の難しさにストレスを感じており、春学期中に授業が改善されなかったと答えた学群生が

## 母語や障害に応じた教育に情熱

育問題に興味を持った。ユーチューブで偶然見つけたドキュメンタリー番組がきっかけだった。日本の朝鮮学校が財政難で校庭を売却し、運動場所がなくなるなど子供組がきっかけだった。

物の着付けを体験した。姉妹校の生徒が韓国に来た際は、語学力を生かして通訳を担当した。日本の大学受験を決めたのは高校3年生の6月だ。韓国の大学の日本語



私たちの学習環境が悪化した問題を取り上げていた。将来は、教育環境の改善に携わる仕事をしたと思うようになった。その後、日本の高校と姉妹校の協定を結ぶ高校に進学。年2回の交流会で日本を訪れ、茶道や着学科に進学しようと考えていたが、重要な模擬試験で成績が目標に届かなかった。「このままでは合格できない」。苦手科目対策より、得意の日本語が武器になる日本の大学を目指すことにした。日本語教育に定評がある

## 「受験応援」動画配信で

### 受験生の不安解消が目的

筑波大学学園祭「雙峰祭」実行委員会は、雙峰祭で例年実施していた「受験応援」を、今年は動画形式で実施し、11月6日からユーチューブで公開する。動画は事前に収録されたもので、公開期間は約1カ月を予定している。

今年は新型コロナウイルスの影響で雙峰祭が中止された。例年雙峰祭には受験生が数多く来場している。コロナ禍で大学を見学する機会がなくなっていること

校を訪問し、知的障害を持つ韓国人の生徒と出会った。そうした子供たちの存在は日本国内ではあまり認識されておらず、日本語を教えるが、適切な支援ができる教員も少ない。その現状にショックを受けた。

それ以降、「マイノリティ」の中の「マイノリティ」の存在を意識し始めた。現在は、母語や障害特性に応じた支援方法を研究している。

参加する筑波大学社会福祉研究会の活動の一環で、土浦市の小学生への学習指導ボランティアにも毎週参加する。

「母語ではない日本語で学んだ経験を生かし、日本で教育マイノリティの子供たちを支援する仕事をしたい」。弱者に向ける視線は優しい。（関根健史Ⅱ国際総合学類1年、写真は本人提供）

委員長の高岡杏さん（障害2年）は「コロナ禍で変化した大学生生活を、大学生の口から伝えられる貴重な機会だ。サークル活動の自粛が求められる中、キャンパス内は撮影できなかったが、受験生の励みになれば幸いだ」と語った。

雙峰祭で例年実施していた受験生向けの企画はほかにも、筑波大の教員が講義する「つくばイチ受けたい授業」などがあるが、「クオリティの確保が難しい」という理由で、今回は開催を見送る。（田所遼

## オンライン授業で困ったこと

- ・課題が多かった 70.2% (3124 人)
- ・画面を長時間見ることに疲れた 67.8% (3019 人)
- ・授業に関する友人との情報交換ができなかった 52.5% (2335 人)

（筑波大の資料から作成）

一定数いると分かった。大学は調査結果を踏まえ、学生同士の意見交換の場を設けるなど、教員が留意すべき点を通知した。

## 学生が質問できる場設置へ

調査では、春学期中に授業の内容と方法が改善され、学群生は4450人、有効回答者は6338人、有効回答者は38・6%、学群生の多くが課題の多さや友人との交流の難しさにストレスを感じており、春学期中に授業が改善されなかったと答えた学群生が



# 団体での課外活動 申請受付開始 「学生交流の柱」再開へ

## 感染防止策の徹底条件に

筑波大は10月1日、「課外活動における団体活動開始ガイドライン」を発表した。感染防止策などを明記した「団体活動開始届」を学生生活課にメールで提出し、許可を得た学生団体は、団体活動を再開できる。これまでは一部の特例を除き、個人での課外活動だけが認められていたが、今後は複数人での活動が可能となる。

(後藤佳伶、三橋美音 12面に関連写真)

ガイドラインは活動の参  
加人数や活動時間につい  
て、一律の制限は設けてい  
ない。活動場所は屋内か屋  
外か、大きな声を出す必要  
があるのかなど、団  
体によって状況が異なるた  
めだ。

このため基本ルールとし



筑波大学歌留多部も、マスク着用・換気徹底のもと練習を再開した(10月25日、文化系サークル会館で)＝後藤佳伶撮影

## 留学フェア オンラインで初開催

### 「渡航再開に今から備えを」

筑波大の留学の仕組みを紹介する「秋期留学フェア」が10月15・30日にオンラインで開催された。例年は大学会館で実施していた。グローバル・コンパス機構の主催で、体験談や各プログラムの説明など、全14回のイベントをオンライン会議システム「Teams」や「Zoom」で実施した。参加者は延べ約800人になった。一部のイベントの録画はTeams内で11月末まで視聴できる。視聴のための情報はT・W・I・N・Sに掲載されている。(車谷郁美 社会学科1年、北川瑠菜、工藤和哉)

初日は、筑波大生のため  
の海外留学ガイドブック  
「Go Abroad」の使い方  
の解説や、留学クイズをす  
るオープニングイベントを  
実施。Teamsを使って  
開かれ、約80人が参加した。  
16日の「経験者に聞いて  
みよう」留学体験談&相談  
会では、米国やインドネ  
シアなどに留学した学生3  
人が、現地での生活を紹  
介した。約50人が参加し、協  
定校との単位互換の注意  
点や現地の人と仲良くなるコ



オープニングイベントで法被を身につけ留学制度を説明する職員(10月15日、1A棟で)＝北川瑠菜撮影

学経験の生かし方などを和やかな雰囲気でも伝えた。フェアは毎年春と秋の2回開催されているが、今春は新型コロナウイルスの影響で中止となった。同機構の糸井智香・国際事業係長は「オンラインで留学の楽しさや雰囲気は伝わるが不安だったが、1日で実施していた内容を2週間に分散したことで、学生により多くの企画に参加してもらえた」と語った。

筑波大は、外務省が発出する「危険情報」と「感染症危険情報」が4段階中最も低い「レベル1」以外の地域への学生の渡航を禁止している。

糸井係長は「学生には、今は留学できないことを理解してもらいたい。その上で、いざ留学が可能になった時にすぐ行けるよう、今から準備を進めてもらいたい」と話した。



歩道橋に架けられている「IMAGINE THE FUTURE」の横断幕(10月17日、第一エリアで)



あいていーえふ【ITF】《名》①筑波大学のスローガン「IMAGINE THE FUTURE」の略。②筑波大学を指す。▽「ITF」とSNSのプロフィール欄に記載して筑波大学所属を表す学生もいる。

### 解説

「IMAGINE THE FUTURE」は筑波大の理念を表すブランドスローガンだ。故・山田信博前学長が推進したブランドイングの「環で、コピーライターの一倉宏さん(昭和52年度人文学類卒)が制作した。後にスローガンを冠したメッセージングが作られた。入学式や筑波大学学園祭(雙峰祭)で歌われ、ス

スローガンの発表から10年。現在ではその頭文字が筑波大の略称として使われるまでになった。山田前学長はこのような未来を想像できたのだろうか。(西村大祐 11人文学類3年、写真も)

て、学生団体は各競技団体や各分野の協会などが策定した感染防止ガイドラインに従うことを打ち出した。また、マスクの着用や活動前後の手指消毒を徹底し、会食や懇談会、部室内での飲食は禁止するとした。

学生団体がメンバーに参加を強要したり、不参加者に不利益な扱いをしたりしないことも求めた。

各団体の学生代表責任者は、健康管理担当者や活動履歴管理担当者を定めなければならない。健康管理担当者は、活動参加者の14日間の健康観察記録を顧問教員に報告し、活動履歴管理担当者は活動の日時・場所・参加者名などを記録し、保管する。

団体活動開始届は、各団体の活動開始希望日5日前の午前10時までに提出する。学生生活課によると、10月23日時点で、届出があった159件のうち150件が許可された。

▽感染防止策の記載が不十分▽毎年更新が必要な学

生代表責任者の届け出がないなどの理由で書類が不備とされ、再提出を求められた団体もある。

筑波大は7月、「課外活動制限下における活動再開に関する申合せ」を発表。課外活動が学生のキャリアや社会貢献に大きく関わる場合に限り、特例として団体活動を認めていた。

しかし、同課によれば、春学期中に学生間の交流が減少したことで、学生が孤独やストレスを感じることにつながった。このことから、同課は「課外活動は学生交流の柱である」と認識し、対面授業の開始に合わせ、団体活動再開に踏み切った」とし、「今後、感染が広がると、団体での課外活動を再び中止せざるを得ない。各団体は必要な感染防止策をしっかりと調べ、計画を立てた上で申請してほしいと呼び掛けた。

10日に団体活動開始届を提出した筑波大学歌留多部は18日に活動を再開した。対面での練習は約7カ月ぶ

りで、現在は11月に開催予定の「東京吉野会大会(C級)」に向け、新入部員も合わせた約20人で、週3回練習に励んでいる。

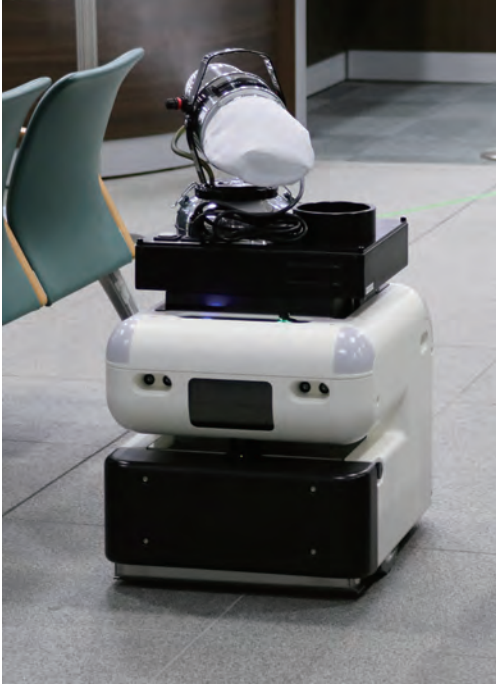
部員の目高晴さん(比文2年)は「軒並み中止されていた大会も少しずつ再開している。大会がないと練習のモチベーションも上がらない。目標に向けてみんなで頑張れるのはうれい」と笑顔で語った。

## 除菌作業ロボット導入

### 職員の負担軽減狙い

つくば市は10月1日、市役所本庁舎(同市研究学園)とつくば市立中央図書館(同市吾妻)に、2台の除菌作業ロボットを試験導入した。来年3月末まで稼働させる。筑波大発ベンチャーのサイバーダイン(本社・同市学園南)とドリーグ(本社・同市吾妻)各社が開発したもので、自治体への導入はどちらも初めて。市は除菌や職員の負担軽減効果を調べ、本格導入するかどうか検討する。

(梅津拓人 比較文化学類2年 写真も)



座席の間を移動しながら除菌する CL02(10月14日、つくば市役所本庁舎で)

市役所に導入されたのはサイバーダインの「CL02」。縦、横、高さとも約50センチの箱型で、上部に除菌液の噴霧器が付いている。QRコードに記録した経路情報を読み取り、自律走行する。センサーで障害物は、羽田空港に導入されている。QRコードに記録した物を感知し、避けながら除菌作業する。今年3月に導入される予定だ。

一方、市立図書館にはドリーグの「UVC紫外線照射自動巡回ロボット」が導入された。来年2月には、市が運営するつくばスタートアップパーク(同市吾妻)にも導入する予定だ。

ロボットは幅約60センチ、長さ95センチ、高さ130センチ。あらかじめ入力された経路を自動で走行し、椅子や本棚に紫外線を照射して除菌する。

市立図書館は2018年から、このロボットを書籍の運搬作業補助のために活用していた。

市は、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、ロボットを導入した。約10億2000万円の交付金のうち454万円を充てたという。

市は今後、筑波大の微生物学サテライト・研究センターなどの専門家に意見を聞きながら、除菌効果の検証方法を検討する。



## Who's Who?

「未踏 I T 人材発掘・育成事業」に企画案が採択

## 大淵 雄生 さん（メ創2年）



同窓会でほほ笑む大淵さん＝本人提供

天才的な I T 人材の発掘を目指す情報処理推進機構（IPA）の「未踏 I T 人材発掘・育成事業」（未踏）に企画案が採択された。

提案したのはアプリの作成を効率化するソフトウェア開発だ。9カ月の開発期間中は専門家の指導が受けられ、最大270万円強の開発費も支給される。

「高校時代から憧れていた事業だった。起業につなげたい」と夢を語る。

提案したソフトでは、入力画面のイメージをデザインするだけで、その画面を表すプログラムを自動生成してくれる。アプリでは、入力画面がよく出てくる。似たプログラムを何度も書く手間が省けるため、アプリ作成の効率化が期待できるという。

小学生の頃から工作好きで、テレビを分解したり、振動で進むおもちゃを携帯電話の部品と歯ブラシで作ったりしていた。プログラミングに興味を持ったのは中学生の時。「新世紀エヴァンゲリオン」に登場する、敵からのハッキング攻撃に対抗するシーンに憧れた。「これやりたい！」と思った瞬間だった。

高校に入り、本格的にプログラミングに取り組んだ。入学祝いに父親から Mac Book を譲り受け、高校1年の夏休みにプログラミングスクールの受講を始めた。

8月末が締め切りだった中高生向けのアプリ開発コンテスト「アプリ甲子園」への応募を目標に、プログラミングの基礎勉強とアプリ開発を同時進行させた。

作成したのは「DANMAKER」というシューティングゲーム。自分で舞台や敵を設定できる。プログラミングを学び始めて1カ月で完成させた。まだ学習していない三角関数の知識が必要で苦戦したが、結果は3位入賞。「うれしかった反面優勝できなかったことが悔しくもあった」。

翌年の「アプリ甲子園」には敵からのハッキング攻撃に対抗するシーンに憧れた。「これやりたい！」と思った瞬間だった。

高校に入り、本格的にプログラミングに取り組んだ。入学祝いに父親から Mac Book を譲り受け、高校1年の夏休みにプログラミングスクールの受講を始めた。

8月末が締め切りだった中高生向けのアプリ開発コンテスト「アプリ甲子園」への応募を目標に、プログラミングの基礎勉強とアプリ開発を同時進行させた。

## 「選挙割」で学生の投票啓発



投票日当日もチラシを配り、宣伝に励んだ（10月25日、つくば駅で）＝後藤佳伶撮影

2面へ

## つくばオクトーバーフェスト



「塗り絵ワークショップ」で地域住民と交流する筑波大生（10月11日、つくばセンター広場で）＝田所涼撮影

5面へ

## 男子バスケ オータムカップ開幕



相手を振り切りゴールに切り込む笹山（10月10日、中央大戦で）＝加藤優花撮影

8面へ

## 文化系団体も続々と活動再開



対面での試合練習に取り組む筑波大学歌留多部（10月25日、文化系サークル会館で）＝天野隼太撮影

11面へ

小学生のころから工作が好き  
アプリ作成の効率化を目指す

「Find Family」というアプリで応募した。認知症の高齢者が徘徊した時、靴に埋め込んだGPS発信機で位置を確認できる。認知症の曾祖父が靴を履くことだけは忘れないことから考案した。

1日13時間、食事と入浴以外の時間をアプリ開発に費やす日々を2カ月間続けた。実用性の高さが評価され、念願の優勝を果たした。GPSなどのハードウェアを扱うのは初めてで、靴に収まるサイズに調整するのが大変だった」と話す。

筑波大入学後には、大学の国際産学連携本部が主催する「アントレプレナーシップ・デベロップメント」に参加した。研究開発の成果を事業化する方法を学び、ソフトを投資会社に売り込むプレゼンも行った。

その際に企画したのは、インターネットにつながった電子機器など（IoT）がどのようにハッキングされるかを学べるキットだ。IoTはサイバー攻撃などに悪用されており、攻撃者の動きを知ること、防御対策も進むと考えた。

キットは情報セキュリティに関する技術や倫理を学生らが学ぶIPAの「セキュリティキャンプ」で社会に役立つ点が認められ、表彰もされた。

同じIPAの「未踏」に採択されてから3カ月。試用版ソフトは完成したが、まだ公開していない。起業に向け、どのように販売していくかなどマーケティング面を詰めている。

将来は、スマホ1台あれば、誰もが簡単に、アイデアをアプリとして形にできるようにしたいと考えている。「未踏」の企画はそのための第一歩だ。

以下のサイト（<https://axstudio.info/#>）に登録すると、アプリの開発情報が配信される。（北川瑠菜Ⅱ比較文化学類2年、工藤和哉Ⅱ生物資源学類1年）

## 編集後記

秋学期開始から1カ月余り。対面授業と団体での課外活動の再開で学内のにぎわいも戻りつつあります（11面）。本紙でも1年生と一緒に取材する機会が増えました。緊張した初々しい姿を見て、やっと始まったキャンパスライフを充実させてほしいとの思いが募ります。▼新聞の重要な役割の一つが、権力の監視です。私も大学新聞記者の端々として強く思います（副編集長・後藤佳伶Ⅱ社会学類3年）

## 編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会  
▽委員長Ⅱ土井隆義（人文社会学系・教授Ⅱ社会学）  
▽副委員長Ⅱ佐藤勤（学生部長）▽委員Ⅱ貫谷純子（生命環境系・教授Ⅱ果樹園芸学）▽竹中佳彦（人文社会学系・教授Ⅱ政治学）

■筑波大学新聞編集委員会

▽編集代表Ⅱ鴨志田公男

（筑波大学・教授Ⅱサイエンスコミュニケーション）

▽編集長Ⅱ西村大祐（人文

学類3年）▽副編集長Ⅱ後

藤佳伶（社会学類3年）

加藤優花（国際総合学類3

年）ほか編集部員21人

発行所Ⅱ筑波大学

印刷Ⅱヒラマ写真製版

次号は  
12月14日（月）

発行予定です